

備蓄の鉄屑、我々の鉄山

これは東京市消費所の回収物置場。鐵屑がある、洗面器がある、レールがある、錆がある、自動車の番札もある、その他種類は数知れず、からいふ風にうんと集めてお役に立てよう



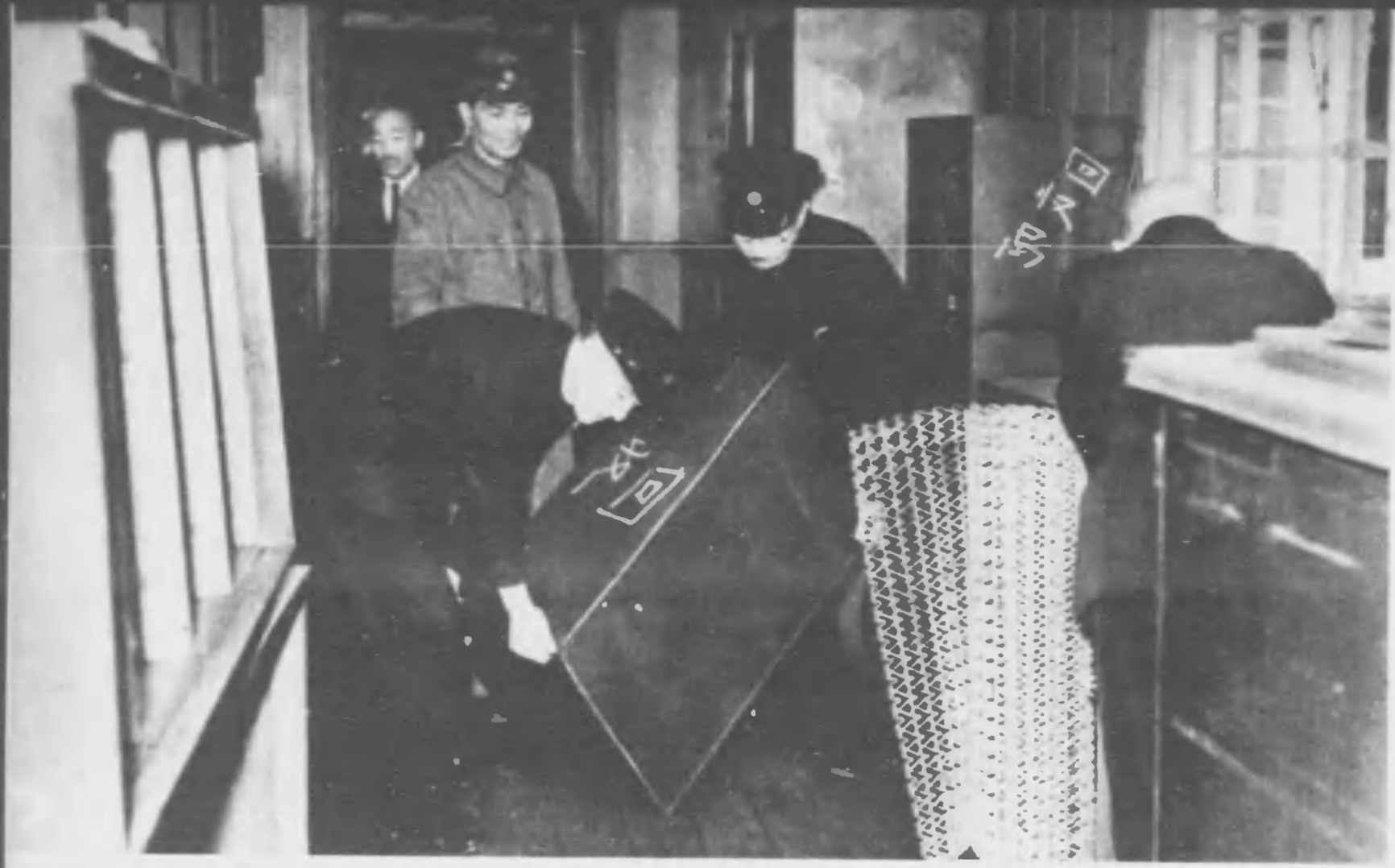
鐵鋼の増産と鐵屑の回収

鐵鋼の自給自足が必要

わが國で鐵鋼の増産をはかるためには、まづ(一)生産設備の増充、(二)製鐵用原料(鐵礦石、石炭、製鐵用煤等)の増産並びに豊富且つ眞滑な供給、(三)現有設備の活用等が一層考へられる生産設備の増充については、いはゆる生産力増進四ヶ年計畫決定前、既に昭和八年日本製鐵株式會社設立以來、着々その整備に努力してきたので、大部分が完成に近づき既に盛んに活動してゐるものも少なくない。たゞ従來製鐵用の原料として、主要な部分を占めてきた米國鐵屑が、昨年八月に一部分許可制となり、引續き十月に至つて全面的に許可制が施行され、實質的には輸出禁止となつた。このために、一部生産擴充計畫に改訂を加へる必要を認め、一層鐵鋼一貫作業設備の擴充に重點を置くこととなり、目下着々進行中である。

鐵鋼の増産には何んといつても、鐵分の供給即ち鐵礦石の供給を十分にしなければならぬことはいふまでもない。米國鐵屑の輸入を仰ぎ得ない現狀では特にさうである。そこで鐵礦石、製鐵用石炭の増産については、鐵鋼生産力擴充計畫の一環として考慮し、生産設備と符合するやう資料なり、開發なり計畫が實行されてゐる。尤も如何に計畫が立派にできてをとも、その増産に直接從事する方々の協力を得なければ計畫倒れになるわけであるが、現在のところでは着々良好な實績を挙げつゝある。しかし最近の需要を充たすためには今後一層の努力を期待せねばならないと思ふ。

次に鐵礦石なり石炭なりが、増産されて山元で積まれておつては、これまた鐵鋼増産に役立たない許りでなく、恐いては採掘能率を阻害することになるのであつて、その圓滑な供給即ち山元から製鐵工場迄、豊富且つ眞滑に運搬されることが必要である。たゞ何分にもその數量が〇〇百萬担とい



鋼の鐵屑を取り外した。あとからすぐ新芽も鮮やかな生垣がしつらへられる。古レールの鐵屑などよりはよつぽど風雅で親み易い

商工省では製鐵類箱の運び出しの最中だ。「なか〜重いですなあ」「いや、からいふものは木炭に限るですわ〜」「もう、ありませんか」



内務省へ行つてみた。春の空に樹の音が響く。鐵屑の取り外しに人夫さんが汗だくのだ...



鐵の文鏡、製鐵木立、金網の整理箱等が机の上に山を築く。それに丁君は親の形見の鐵の火皿まで奮發して献納した「もう、ありませんか」

ふ多量に上るものであるから、船舶不足の現狀では、種々困難な問題がある。しかしこの點を解決し、安全な供給をはかる事は鐵鋼増産に絶対に必要なことも明瞭である。従つてこの輸送計畫なりこれに伴ふ配給計畫なりが詳細に立てられねばならないし、又現に實現に移されてゐる。

鐵鋼一貫作業設備の擴充については、一般生産擴充産業に先立つてその整備をはかつてきたことは前に述べた通りであるが、現在の鐵鋼需要を充たすためには、歐洲大戰後各地に増設された熔鐵爐を持たない製鐵工場の設備も十分活用しなければならぬ。これらの設備を利用するには、自ら多量の鐵屑が人用となるわけであるが、果して活用し得るであらうか

それには設備をどうするか

前に述べた熔鐵爐を持たない製鐵工場を、普通製鐵工場と区別してこれを「非製鐵工場」として、これらは建設費も比較的安値であり、鐵屑も従來は豊富低廉(最も低廉な時は殆んど運賃だけで米國から輸入が出来たほどである)に輸入し得たし、その製鐵技術も容易である等ことから、歐洲大戰後各地に設置されたものである。その工場数も相當數に上り、現在の生産計畫を遂行するには、何んとして、これらの設備を活用しなければならぬ實狀にある。この種の工場は従來どの位鐵屑を使用してつたかといへば、鐵屑を廉價に且つ自由に輸入し得た當時は、鐵屑の配合割合が二〇對八〇程度であつた。その後鐵屑價格の騰貴とか替替管理による制限とか種々の關係から、鐵屑の使用量も逐次増加してきたが、それでも三〇對七〇程度であり、大體この程度までの使用量がまづその限度のやうにいはれてつた。それならばこのやうな工場はその程度の鐵屑を、どうしても使用しなければ操業し得ないのかといふと必ずしもさうではない。製鐵法に工夫を加へるならば、鐵屑の配合割合を變更し、むしろ鐵屑の方を多く使用しても製鐵時間なり、製鐵能力なりに支障なくして効果を挙げ得られることが明瞭にされた。現に昨年下半年から實行に移され、毎期その割合が強化さ